



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク

あつたかウェルねっとニュース 第3号

2005年4月5日発行

ホームページ <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Gaien/7815/>

あいさつ

ねっと副代表 関 久子(新座市)

平成十六年度、外には大自然の怒りをまともに受け、内には心の呻き、人間の力如何ともなし難い時間の流れが過ぎました。

推進員の皆様、十六年度のお働きお疲れさまでした。この一年の歩みを振り返りその足跡に改めて万感の思いをもたれているのではないでしょうか。さて、私どもあつたかウェルねっとの働きは謳われているように「ふだんのくらしのしあわせ」作りをお手伝いする、それぞれが弱さをもちながらもみんなで一緒に考え体験し地域に「優しさ・思いやり」を建て上げていくお手伝いをと志した者たちのネットワークです。この十六年度一年間の活動はこの3号を含め3回の会報によってお伝えしてきましたが、埼玉県という私どもが住まいなす地域でのささやかな「優しさ、おもいやり」の分かち合いの数々は会報に載せきれない各推進員のお働きがあります。各地域の助っ人としてそれなりに相応しく関わっていらした皆様が蒔かれた「福祉教育」の種は新年度には芽吹き豊かな稔りを見せてくれることでしょう。荒れ狂う時代だからこそ推進員皆様を必要としている時代であるのです。・・新年度の更なる充実を祈ります。

埼玉県社協の福祉教育・ボランティア学習推進員関連の担当が星さんに変わります。

よろしくお願いします！

~ ~ ~

お世話になりました！

残念ながら、県社協の高木さんは小地域福祉活動等の担当に異動されます。更なるご発展を！！

17年度あつたかウェルねっと ☆総会&研修会☆ 開催のお知らせ

ご参加のお願い

会場のすこやかプラザは、ずっと先まで予約が入っていて、どうなることかと案じておりましたが、県社協高木さんははじめ関係するみなさまのご協力をいただき、下記のとおり決まりました。

推進員のみなさまに置かれましては、年度初めのお忙しい時期かと存じますが、年会費(1000円)をご持参の上、ご出席くださいますよう、ご案内を申し上げます。

--- 記 ---

開催日時 平成17年5月14日(土)

開催場所 彩の国すこやかプラザ2階
研修室1・2・3

開催内容 17年度あつたかウェルねっと総会
10:00 開会 代表あいさつ

来賓祝辞

議事

平成16年度事業報告・会計報告・監査報告

平成17年度 会則(副代表と監査2名に変更案)・役員(案)・事業計画(案)・予算(案)

平成17年度役員あいさつ

11:30 情報交換および昼食(グループ毎に軽食を頂きながら)
*軽食は、ねっとで用意します。

~総会に引き続き~

あつたかウェルねっと研修会

シンポジウム及びグループディスカッション
テーマ:「ユニバーサルデザイン」

13:00～13:10 趣旨説明、パネラー紹介

13:10～14:25 各パネラーの発表

埼玉県文化振興課 ユニバーサルデザイン
担当者

狭山市視覚障害デザイン研究室 宿谷氏
介護老人保健施設 やまぶきの郷 大橋氏

14:25～14:40 休憩、質問受付

14:40～15:00 質問に対する回答

15:00～15:55 グループ討議

各グループ発表とまとめ

15:55～16:00 事務連絡、閉会

一人でも多くの推進員のご参加をお願いします！



あちらで、こちらで...活躍中！！

推進員さんの活動情報

...三芳町では...

～推進員とボランティアが協同実践!!～

芳町の推進員さんたちが何回も企画会議を重ね、地域の「ボランティア教室」(2日間・10:00～15:00)を公民館で開催しました。

1日目

- ・推進員(ボランティア)開会 司会進行
- ・推進員(社協職員)オリエンテーション
- ・推進員(教員) ボランティアについて

司会進行：発表者：

推進員(社協職員 福祉サービス利用のボランティア 教員)

推進員(ボランティア)高齢者体験の用具
装着説明と体験進行

- ・まとめ ふりかえり

2日目

- ・推進員(ボランティア)開会 司会進行
- ・推進員(社協職員) オリエンテーション

ボランティア活動紹介 17団体

～ビデオで活動紹介～

(社協職員が1～2ヶ月くらい前から、活動の様子を3分間程度のビデオにおさめ、各サークル紹介者は活動内容を説明) *ビデオには小学校での福祉教育も紹介されました。

- ・推進員(福祉サービス利用のボランティア)
体験コーナー(車椅子体験・視覚障

害者体験)

* 車椅子体験は近隣市町村の推進員、崎村さんが協力しました。

・まとめ ふりかえり 終了

推進員さんの声

何度も集まり大変だったけれど、いざ終わってみれば、ほっとしたのと同時に良かつたんじゃないかな。皆さんも活動を少し分かってもらえたかも。徐々に分かってもらえば、それでいいのです。

...神川町では...

～車椅子体験

出来ることから始めよう！！～

丹荘小学校の4年生が総合学習の時間、車椅子体験を行った様子が神川町ボランティアだよりに掲載されました。

体験には、町内の福祉教育ボランティア学習推進員の渋谷さんに協力してもらい、車イスで生活する中で感じることなどを中心とした話や、本人が実際に運転する、車イス用に改造した車を使って、乗り降りの方法や、障害者用駐車スペースなどについて話していただきました。

マットや段差、スロープを置いたコースをつくり、車イスの介助方法を体験、また、車イスを自分で操作し、スラロームや、下に置いてある物を拾い、高い位置にあるカゴへ入れるといった動作も体験しました。

最後に、バリアフリーが進み、車イスを利用される方が外出しやすくなってきたものの、スーパーや駅など身近な場所にも、体験したことのように不便を感じること、ひとりでは出来ないことがまだまだあります。

今後、そうした場面に出会ったときは、お手伝いが必要かどうか、まず、声をかけることが大切な一歩になります。

無理せず出来ることから始めてみましょう。



...鶴ヶ島市では...

~ 地域福祉の市民イベントで推進員が PR ~

鶴ヶ島市東公民館 & 周辺地域で行われた「ボランティア・市民活動フェスタ 2005」の参加団体 70 (企業・市民・行政)と一緒に、推進員も日頃の活動をアピールしました。また、鶴ヶ島市の福祉教育・ボランティア学習の冊子や、あったかウェルねっとのチラシも配布し、PR しました。

~ 鶴ヶ島市社協から ~

「公開プレゼンテーション」のお知らせ！

= 赤い羽根の募金はどのように使われているの？ =

17 年度ボランティア・市民活動団体助成金交付事業公開審査会を平成 17 年 4 月 17 日(日)午後 1 時半から鶴ヶ島市西公民館で行います。

興味のある方は、是非、見に来てください！

審査員は、こども審査員 20 名(市内小中学校より)・団体審査員(申請団体)・大人審査員 10 名(ハツ オン埼玉代表/中央共同募金会/埼玉県社協/NPO 法人市民社会創造アンド プロ ラムネイバー/鶴ヶ島市ボランティアセンター運営員)の予定です。

~ ~ ~ ~
今後も各地域からの推進員情報を
お待ちしています！

県社協より情報いろいろ★★★**福祉教育・ボランティア学習推進員
フォローアップ研修報告**

県社協主催

標記研修を 1 月 16 日に行い、42 名の方に御参加いただきました。

午前中は、「アイスブレイクを有効に活用しよう」ということで、桶川市の松嶋さん、杉本さん、神川町の相川さん、日高市の古橋さん、永田さんに、日ごろ地域で実践しているアイスブレイクを紹介していただきました。ただ、体や頭をほぐすだけではなく、「ともに生きる」というメッセージが込められ、福祉教育についての話に入る前の導入部分にもなるものでした。

午後は、東京国際大学の松本すみ子助教授に御指導いただき、「福祉教育を通して精神障害への正しい理解を広げよう」と題した講義とワークショップを行いました。講義では、難しい専

門知識ではなく、皆さんのが身の回りにある精神保健福祉の問題に关心を持ち、皆さんに出来ることから取り組んで欲しいとい



うメッセージをいたいたいたように思います。その後のワークショップは、精神障害者が抱えている「生活のしづらさ」をあげ、それに対して「我々が何ができるか」「推進員として何ができるか」を考えました。参加された皆様からは、「まずは自分がもっと関心を持つことからはじめたい」「地域に理解を広げられるように学びやすいプログラムをつくっていく」など、積極的な御意見をいただきました。

福祉教育では、限られた福祉課題しか取り上げられない傾向もありますが、今回の研修をきっかけに、誰もが安心して暮らせるまちをつくること全てに、福祉教育が関係していることを再確認していただけたと思います。

**埼玉県子育て応援行動計画にも
推進員制度**

埼玉県子育て応援行動計画にも推進員制度が位置付けされました

この計画は「彩の国エンゼルプラン」にかわる計画であり、次世代育成支援対策推進法に基づく「都道府県行動計画」及び児童福祉法に基づく「保育計画」として位置付けられるものです。この中で、「豊かな心を育てる教育の推進」という項目で、「助け合いや思いやりの心を地域に広げるため、社会福祉協議会と連携して、小・中・高校生を対象に、ボランティア活動などの体験学習の場づくりを行うとともに、これらの活動への助言や支援を行う福祉教育・ボランティア学習推進員の育成を推進します。」とされています。

前回までに、「埼玉県地域福祉支援計画」および「彩の国教育改革アクションプラン」で推進員制度が位置付けられたことをお伝えしましたが、今回は子育てに関する計画での位置付けです。皆さんの取り組みが評価されているとともに

に、様々な分野から活躍を期待されているということではないでしょうか。

ピオトープを核に広がる保育

(日本福祉教育新聞 3月18日より)

生き物の住むところ-を意味するピオトープを保育環境の中に取り入れる動きが広がっています。

東京都千代田区立昌平幼稚園では池や田んぼ作りに父母も参加、子どもたちも稻作りに挑戦しました。また、広島県広島女学院ゲーンス幼稚園では、「かかわり合う」ピオトープにするなど、子どもの遊びの質が深まり、ピオトープを媒介に子育ての輪が広がっています。ただ観察する対象としてのピオトープではなく、そこに住むトンボやメダカ、草だけではなく子どもや大人も生態系の一部として「かかわり合う命」をテーマにしています。遊びをとおして自然に命の尊さを感じる機会があるということは、子どもたちにとってとても意味のあることだと思います。

ミニさくらを知っていますか？

こどものまち「ミニさくら2005」が千葉県佐倉市で3月27日から4月2日までの1週間に渡り開催されました。

このイベントは、ドイツのミュンヘンで20年以上前から行われている「ミニ・ミュンヘン～子どもだけが市民になれる街～」をモデルに、子供関係のNPOスタッフや地域住民らが02年から開始したものです。「ミニ・ミュンヘン」は、子どもたちが仕事をしながら、遊びながら、まちの仕組みを体験して学べるようになっています。

「ミニさくら」でも、「モール」という単位の紙幣が使われ、子供たちは会場内に設置された職業安定所などで仕事を探して働き、働いて得た収入で欲しい物を購入します。職業は、市役所や銀行、デパート、警察など40種類を超え、参加した子供たち自身が新たな職業を作り出すこともできます。

ここでの原則は、すべての決め事は子どもが

主体的に考えて決めていくということ。大人が口を出したり、急がせたりしてはいけません(口を出しすぎる大人は、子ども警察に逮捕されてしまします)ですから、1週間の間にまちの運営は少しずつですが進化していきます。皆さんも日常から感じられていると思いますが、子どもの発想力の豊かさ、関心を持ったことへの集中力など、子どもの持つ力を最大限に引き出すことができる取り組みではないでしょうか。

福祉教育でも、学校の中だけではなく、地域をフィールドにすることが重要であるとされています。その地域というのは、校門の外ということではなく、子どもが自分のまちと感じられる場のことではないでしょうか。自分たちで作り上げた「ミニさくら」が、誰もが住みやすいまちになるにはどうすればよいかという視点が加われば、とても貴重な福祉教育の場になり得るのではないかと感じます。

あったかウェルねっとホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Gaien/7815/>

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉) Well Being(幸福)のWell(大切にという意味)です。私たちのネット愛称には、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたいとの願いが込められています。

編集後記

情報を寄せ下さったみなさん、ありがとうございました。各地域での活躍ぶりに励まされながら紙面作りを終えることができました。引き続き、情報を寄せ下さいよう、よろしくお願ひします。

発行:彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク
事務局

〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田4-7-12-504

横田八枝子 (TEL&FAX: 049-281-3161)

(e-mail: y-ya@xf7.so-net.ne.jp)

協力:埼玉県社会福祉審議会 埼玉県ボランティアセンター

担当:高木 (TEL: 048-822-1192 FAX: 048-822-1449)

(e-mail: takagi@fukushi-saitama.or.jp)

編集:あったかウェルねっと世話人会(情報担当)